

CIQuS が拓くマルチプローブ連携研究 Multi-probe Collaborative Research Pioneered by CIQuS

雨宮健太

KEK 物構研 量子ビーム連携研究センター

物構研では、2020 年 4 月に従来の構造物性研究センターを発展的に改組し、量子ビーム連携研究センター(Center for Integrative Quantum Beam Science: CIQuS) を新設しました。CIQuS は、放射光・中性子・ミュオン・低速陽電子という4つの量子ビームを備えた、世界的にもユニークな研究所である物構研のメリットを活かして、新しいマルチプローブ連携研究分野を創成することを目指しています。そのために CIQuS では、共同利用研究者を異なる量子ビームを複合的に利用した研究(マルチプローブ利用研究)へと誘導・支援する「発掘型共同利用」と、所内スタッフが中心となってイノベーションに貢献できる量子ビーム連携研究課題を設定し、産学官連携・国際連携によって課題解決する「テーマ設定型共同研究」を推進し、これらの取り組みを通して、マルチプローブ利用研究を展開できる人材の育成を行っています。本講演では、マルチプローブ連携研究を切り拓くための CIQuS の取り組みを紹介します。

